

DeLonghi

Distinta

Electric Kettle

デロンギ

ディスティンタ

電気ケトル

型式番号

KBI1200J



※ この写真は KBI1200J です。

Distinta

PERLA

Electric Kettle

デロンギ

ディスティンタ・ペルラ

電気ケトル

型式番号

KBIN1200J

家庭用

この製品は湯わかし専用です。

保温機能はついていません。

このたびは、デロンギ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書を最後までお読みください。お読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

本書に記載の内容は、改善のため予告なく変更する場合があります。

取扱説明書（保証書付）

目次

安全上のご注意.....	2
各部の名前.....	5
使いかた.....	6
お手入れのしかた.....	8
故障かな？.....	9
仕様.....	9
アフターサービス.....	10
保証書.....	11

※ 本体の型式番号「KBI1200J」および「KBIN1200J」の後に続くハイフンおよびアルファベットは、色番号を表すものです。

※ 本書のイラストは KBI1200J を使用しています。

安全上のご注意 <必ずお守りください>

- ご使用の前に必ずこの「安全上のご注意」を最後までお読みください。
- ここに示した注意事項は製品を安全にお使いいただき、あなたや他の人への損害を未然に防止するものです。



警告

誤った取り扱いをしたとき、死亡や重傷に結びつく可能性のあるもの



注意

誤った取り扱いをしたとき、軽傷または家屋・家財などの損害に結びつく可能性のあるもの

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。(下記は絵表示の一例です)



必ずしなければいけないことを示します。



してはいけないことを示します。



警告



定格 15 A (100 V) のコンセントを単独で使用する
(火災、感電の原因)

- ゆるんだコンセント、延長コード、テーパータップなどは使用しない
- 海外など、異なる電源電圧の地域で使用しない (日本国内専用)

電源プラグは根元までしっかりと差し込む
(火災の原因)

電源プラグやコンセントのほこりなどは定期的に乾拭き掃除をする
(火災の原因)

異常、故障時には直ちに使用を中止する

(火災、感電、やけどの原因)

〈異常、故障例〉

- 異常な音やにおいがする
- 電源プラグ・コードが異常に熱くなる
- ケトル本体に変形や破損がある
- ケトル本体からの水漏れ
- 沸いたのに電源が切れない
- 本体が転倒、落下し損傷した

異常、故障時には直ちに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、販売店または当社へ点検、修理を依頼してください。

電源プラグを抜くときは、必ず電源プラグを持って抜く
(火災、感電の原因)



本体、電源ベース、接続部、電源プラグ・コードに水をかけたり、水に浸けたり、水洗いしたりしない
(火災、感電の原因)

蒸気が水滴となって本体の底や電源ベースに付着した場合は、乾いた布巾で拭き取ってください。

誤って水 (お湯) をかけてしまった場合は直ちに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、販売店または当社へ点検、修理を依頼してください。

濡れた手で本体を触ったり、電源プラグを抜き差ししない
(感電の原因)



警告



電源プラグ・コードを破損させない
(火災、感電の原因)

- 傷付けたり、加工したり、加熱したりしない
- 無理に曲げたり、ねじったり、束ねたりしない
- 引っ張ったり、重いものを載せたり、挟み込んだりしない
- コードを引っ張って本体を移動させない

電源プラグ・コードに破損、変形などの異常があるときは直ちに使用を中止し、販売店または当社へ点検、交換を依頼してください。

動作中に電源プラグを抜き差ししない
(火災、感電の原因)

電源コードをコードホルダーに巻き付けたまま使用しない
(火災の原因)

※余った電源コードは伸ばしたまま使用してください。

電源コードを収納したまま使用しない
(火災の原因)

電源コードはテーブルなどの端から垂らしておかない
(やけど、けがの原因)

子供など取り扱いに不慣れな方、介助を必要とする方だけで使わせたり、乳幼児の手の届くところで使用しない
(火災、感電、やけど、けがの原因)

本製品は、安全に関する知識や経験が少ない方の使用は想定しておりません。お子様、乳幼児、取り扱いに不慣れな方が近くにいるときは、必ず操作できる大人が付き添ってください。また、子供が機器（電源コード含む）で遊ばないよう監視してください。



本体を傾けたり、ゆすったり、お湯を入れたまま移動しない
(やけど、故障の原因)

接続部にピン・針金など金属物（異物）を入れたり、ごみを付着させたりしない
(火災、感電の原因)

分解、修理、改造をしない
(火災、感電、やけどの原因)

水は最大水量（MAXライン）以上入れない
(やけど、故障の原因)

※お湯が吹きこぼれる場合があります。

お湯を注ぐときや注水するときに、注ぎ口やふたからの蒸気に手や顔を近づけない
(やけどの原因)

注ぎ口を布巾などでふさがない
(やけどの原因)



注意



必ず付属の電源ベースを使用する
(火災、やけど、けがの原因)

- ケトル本体を直火（ガス台など）、電気ヒーター、電磁調理プレート、ストーブなどの熱源に置かない

使用するとき、必ずふたを閉める
(やけどの原因)

- お湯を沸かしている間はふたを開けない

海拔2000mを超える場所で使用しない
(故障の原因)

使用後は必ず電源プラグを抜く
(火災、感電、けがの原因)

お手入れは必ず電源プラグをコンセントから抜き、本体各部が冷えてから行う
(感電、けが、やけどの原因)

- 「お手入れのしかた」（8ページ）を参照する



不安定な場所や敷物などの上で使用しない
(火災、やけど、けがの原因)

- テーブルクロスなどの敷物の上やテーブルの端など不安定な場所で使用しない
- 熱に弱いテーブルの上、壁、家具などの近くで使用しない
- キッチン用収納棚等に置くときは、蒸気がこもらないようにする

※ 蒸気または熱で壁や家具を傷め、変色、変形の原因になります。



火気の近くや直射日光が長時間あたる場所で使用しない
(火災、感電の原因)

- 熱源の近くで使用しない
- 屋外や湿気の多い場所で使用しない

空焚きしない
(やけどの原因)

- 最小水量以上の水を入れて使用する
(6ページ参照)

使用中および使用後しばらくは、高温部に触れない
(やけどの原因)

- 使用後のケトル内部（底部）は余熱があるので触れない

本製品を業務用で使用しない
(火災、感電の原因)

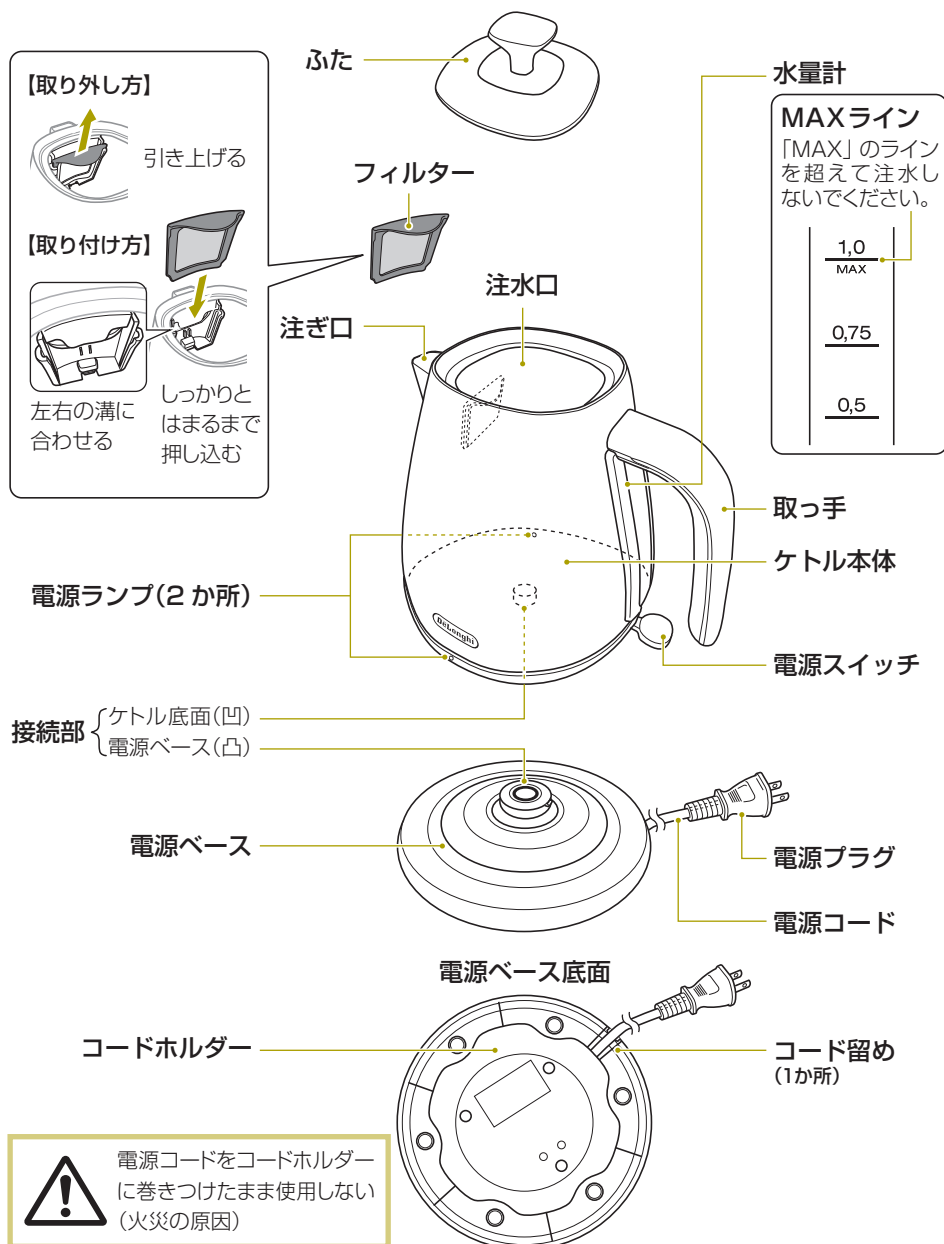
※ 本製品は次の用途を含む家庭用電気製品です。使用者が必要ときに読めるよう、手の届く所に本書を保管してください。

- ・ 店舗、事務所、仕事場などのスタッフ用キッチン
- ・ ファームハウス
- ・ ホテル、旅館、民宿など宿泊施設

水以外のものを入れたり、他の用途で使用しない
(火災、感電、けがの原因)

各部の名前

梱包材などは、すべて取り除いてください。



使いかた

はじめて使うときは、沸いたお湯から金属の臭いがあります。フィルターを取り外し、事前にMAXラインまで水を入れて沸騰させてください。これを2～3回繰り返し、水でよく洗ったフィルターを取り付けてからご使用ください。

1 ケトルに水を入れる

ケトルを電源ベースから外してふたを開け、水に必要な量 (0.2L～1.0L) だけ入れます。カチッと音がするまでふたを押して、しっかりと閉めてください。

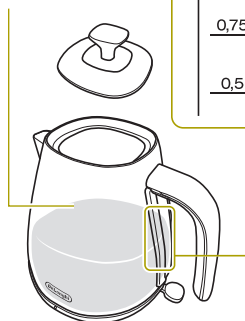
※注水するときは、必ず電源ベースから本体を持ち上げてください。

※2日以上使用しなかったときは、内部をよくすすいでください。



- ・ケトル本体や電源ベース、電源コードに乳幼児の手が届く場所で使用しない (やけどの原因)
- ・最大水量を超えて水を入れない (やけど、故障の原因)
- ・ケトル内部 (底部) が浸る程度の水を入れて使用する (故障の原因)
- ・お湯を沸かす際は、必ずフィルターを取り付け、ふたを閉める (やけどの原因)
- ・空焚きをしない (やけどの原因)

最大水量:1.0L
最小水量:0.2L



MAX ライン

1.0

MAX

0.75

0.5

※最小水量以下の水量では、空焚き防止機能が働いて、本体内の安全装置が作動し、自動的に加熱を終了します。空焚き防止機能が働いたときは、電源プラグを抜き、本体が冷めるまで待ってからお使いください。

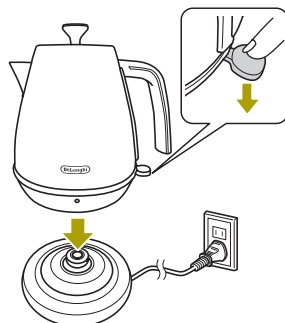
2 電源プラグをコンセントに差し込む

コンセントに直接差し込みます。

3 ケトルを電源ベースにのせ、電源スイッチを下げる

水を入れたケトルを、電源ベースの中央にケトルの底面の凹接続部と電源ベースの凸接続部を合わせてセットします。

電源ランプが点灯します。



4

お湯が沸き、電源が切れる

お湯が沸くと電源ランプが消灯し、自動的に電源が切れます。(→電源スイッチが元に戻ります)

【お湯が沸く前に、電源を切る場合】

- 電源スイッチを押し上げる
または
- ケトルを電源ベースから持ち上げる→電源スイッチが、自動的に元に戻る



お湯を沸かしている間や沸いた後に、ふたを開けない。また、注ぎ口からの蒸気に手や顔を近づけない(けが、やけどの原因)



5

お湯を注ぐ

ケトルを電源ベースから外し、お湯を注ぎます。

※保温機能はついていません。

※続けてご使用の場合は、1～2分間の時間を置いてください。



- お湯が沸いたときのケトル本体は熱いので、表面や水量計などに触れない(やけどの原因)
- お湯を注ぐときや注水するときに、お湯が跳ねることがあるので注意する(やけどの原因)
- 長時間使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜く(火災の原因)

必ずお守りください

使用後は水垢の付着をおさえるため、ケトルを空にします。

お手入れのしかた



- ・ 事前に必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ・ 使用后すぐのお手入れはやめ、各部が冷えてから行ってください。
- ・ 傷や変形の原因になるので、アルカリ性洗剤、クレンザー（研磨剤）、ベンジン、シンナー、アルコール、金だわしは使用しない。

水洗いできません

ケトル本体（内部のみ、
すすぎ洗い可）



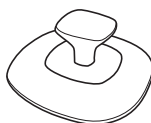
電源ベース



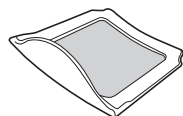
電源コード・プラグ

- ・ 外側の汚れは、柔らかい布にお湯を含ませ、固く絞ってから拭き取ります。
- ・ 落ちにくい汚れは、お湯で薄めた台所食器用洗剤を柔らかい布に含ませ、固く絞ってから拭き取ります。その後、お湯を含ませ固く絞った布で、洗剤を残さず拭き取ってください。
- ・ 電源コード・プラグは、柔らかい布で乾拭きだけしてください。
- ・ ケトルの内部は、固く絞った濡れ布巾に重曹をつけて拭き、よくすすいでください。

水洗いできます



ふた



フィルター

- ・ 柔らかいスポンジと台所用中性洗剤で水洗いしてください。
本体から取り外して洗い、乾かしてから取り付けてください。

石灰分の除去 2～3カ月に一回を目安に行ってください

長く使っていると、ケトルの内壁に石灰分が付着し、白い膜ができます。使用頻度や水質によりませんが、付着が目立つ場合は、以下の方法で石灰分を除去してください。

- ①ケトルに0.8Lの水と食酢もしくはクエン酸を大さじ2～3杯入れ、ふたをします。
- ②ケトルを電源ベースにセットし、電源スイッチを押して電源を入れます。
- ③沸き上がった後（＝電源スイッチOFF）、そのまま1時間放置します。その後、お湯を排水しケトルを空にします。
- ④ケトルを水だけで満水にして、お湯を沸かします。食酢を使用した場合は、酢の臭いが消えるまで繰り返してください。繰り返す行う際は間で必ず1～2分程度の休み（電源OFF状態）をとってください。

酢もしくはクエン酸



故障かな？

使用中に異常が生じたときは、修理を依頼される前に、下記をもう一度チェックしてみてください。それでも異常があるときには、修理をご依頼ください。

症状	考えられる原因	対処のしかた
電源が入らない／沸騰しない	電源プラグがコンセントから抜けている	電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。
	ケトルが電源ベースに正しく置かれていない	ケトルを電源ベースに正しく置いてください。
	空焚き防止機能が働いた	電源プラグをコンセントから抜き、ケトルを電源ベースから外し、しばらく自然に冷ましてからご使用ください。必ず最小水量以上の水を入れて、ご使用ください。
使用中に電源が切れた	空焚き防止機能が働いた	
沸騰しても電源が切れない／沸騰まで時間がかかる	MAXライン(=最大水量)以上の水が入っている	MAXラインを超えて水を入れないでください。
	ふたが閉まっていない	ふたをきちんと閉めてください。
お湯が吹きこぼれる	MAXラインを超えて水を入れた	MAXラインを超えて水を入れないでください。
使用中電源が入ったり切れたりする／沸騰する前に電源が切れる	ケトル内部に石灰分がたまっている	ケトル内部に石灰分がたまっていないか確認してください。「石灰分の除去」を参照し、お手入れしてください。(8ページ)

これは故障ではありません

本体が熱い	お湯が沸いたときのケトル表面は、大変熱くなります。
内部（底部）に斑点が出る	余熱（一時的な空焚き状態）による金属の変色です。異常ではありません。

仕様

製品名称	デロンギ ディスティンタ 電気ケトル	デロンギ ディスティンタ・ペルラ 電気ケトル
型式番号	KBI1200J	KBIN1200J
定格	電圧／周波数	交流100V／50-60Hz
	消費電力	1200W
定格容量	1.0L	
外形寸法（約）	KBI1200J	本体：幅215×奥行165×高さ205（mm） 本体+電源ベース：幅215×奥行165×高さ225（mm）
	KBIN1200J	本体：幅220×奥行165×高さ205（mm） 本体+電源ベース：幅220×奥行165×高さ225（mm）
質量（約）	本体：0.9kg 本体+電源ベース：1.1kg	

アフターサービス

- 1 使用中に異常(★)が生じた場合は、直ちに電源を切り電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、9ページの「故障かな?」で調べても正常に機能しない場合は、お求めの販売店または当社(下記)にご相談ください。

★以下のような場合には、点検および修理が必要です

- 使用中、電源プラグ・コード、コンセントが異常に熱くなる
- 本体や電源ベースに、水やジュース(液体)などをこぼした
- 電源プラグ・コードが変形、破損している
- 本体に強い衝撃(転倒・落下)を与えた
- 取扱説明書どおりに使用しているのに、正常に機能しない

- 2 万一故障した場合は、保証書に記載されている販売店に ①お買い上げ日 ②製品名称と型式番号 ③故障の状況を連絡のうえ、修理を依頼してください。

※修理品の送付先については、お電話またはホームページ(下記)でご確認ください。

※修理品を送付する場合は、必ず故障の状況を記したメモと、保証期間内の場合は保証書を同封してください。

※本製品のメーカー保証範囲は保証規定によります。保証期間を経過した製品についても、お問い合わせや有償での修理をうけたまわります。(補修用性能部品保有期間内)

- 3 補修用性能部品の保有期間について

当社では、この製品の補修用性能部品について、最終輸入日を起点に5年間保有しております。

※補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

4



まごころ点検について

長年ご使用の電気ケトルは、点検をお勧めします。

保証期間(1年)が過ぎて、少しでも気になる点がございましたら、安全のために専門技術者による点検(お預かり)をお勧めします。点検の依頼および料金等につきましては、下記までお問い合わせください。

5



再資源化システムについて

ご不要になった製品は、当社で費用を負担し、素材ごとに分別し、再資源化いたします。

製品のお預かり方法など、再資源化のご相談は、下記までご連絡ください。

● **送料について**：送料はお客様のご負担(元払い)となります。あらかじめご了承ください。

● **梱包について**：製品の入っていた箱(元箱)に入れてお送りください。元箱がない場合は、段ボール箱に入れるか、エアërバックンにぐるんでください。

※ 修理や点検と区別するため、外箱または送り状に、必ず「**再資源化**」と明記してください。

※ 送付先については、お電話またはホームページ(下記)でご確認ください。

以上、アフターサービスについてご不明の点がございましたら、お求めの販売店または下記までお問い合わせください。

デロンギ お客様サポートセンター ▶ (受付時間 土、日、祝日を除く毎日9:30～18:00)

Tel.0120-804-280 / Fax.0120-956-020

〒201-0012 東京都狛江市中和泉 5-33-37

ホームページでのお問い合わせ(URL) **<http://www.delonghi.co.jp/support>**

保証書

ご販売店さまへ、※印欄は必ずご記入ください。

持 込 修 理

製品名: デロンギ ディスティンタ 電気ケトル/ デロンギ ディスティンタ・ペルラ 電気ケトル		型式番号: KBI1200J/ KBI1200J	
お 客 様	ご氏名: _____ 様	TEL: _____	_____
	ご住所: 〒 _____		
販 売 店	※店名・住所・TEL: _____		_____ 印
	※お買い上げ日: _____ 年 _____ 月 _____ 日		保証期間: お買い上げ日より1年間
		保証対象: 本体	

見 本

保証規定

本書は、お客様の正常な使用状態において万一故障した場合に、本書記載内容の範囲で無料修理を行うことをお約束するものです。

1. お買い上げの日から表記期間中故障が発生した場合は、本書と購入証明（レシート、領収書、配送伝票でも可）をご準備の上、下記までご連絡ください。お買い上げ販売店独自の保証やその他サービスがある場合は販売店へご相談ください。
2. ご転居の場合は、事前にお買い上げの販売店にご相談ください。
3. ご贈答品などで本保証書に記入しているお買い上げの販売店にご相談ができない場合には、下記に直接ご連絡ください。
4. 次のような場合には、保証期間内でも有料修理になります。なお、有料修理の場合の送料はお客様のご負担となりますので、ご了承ください。
 - イ. 本書のご提示がない場合
 - ロ. 使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障・損傷
 - ハ. お買い上げ後の取付場所の移動、落下、輸送などによる故障・損傷
 - ニ. 火災・公害・塩害・ガス害（硫化ガスなど）・異常電圧・定格外の使用電源（電圧、周波数）および地震・雷・風水害、その他天災地変など外部に原因がある故障・損傷
 - ホ. 一般家庭用以外（例えば業務用、車両、船舶への搭載）に使用された場合の故障・損傷
 - ヘ. 購入証明（レシート、領収書、配送伝票でも可）が無く、お買い上げ日、お客様名、販売店名が確認できない場合、あるいは字句を書き換えられた場合

ト. 消耗品が損耗し、取り替えが必要な場合

チ. 付属品および本体から取り外せる部品の破損・紛失

5. 修理に際して代替部品に交換する場合があります。この場合、交換した部品は弊社が任意に回収のうえ適切に処理、処分させていただきます。
6. 故障状態、その他の事情により、修理に代えて同機種での製品交換、または同等能力を有する他機種への交換となる場合があります。
7. 故障によりお買い上げの製品が使用できないことによって生じた損害については補償いたしません。
8. 本書は日本国内においてのみ有効です。（This warranty is valid only in Japan.）
9. 本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
 - この保証書は、本書に記載されている期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがってこの保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店または、下記にお問い合わせください。
 - 補修用性能部品の保有期間につきましては取扱説明書「アフターサービス」をご覧ください。

お客様にご記入いただいた保証書の写しは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために、記載内容を利用させていただく場合がございますので、ご了承ください。

デロンギ・ジャパン株式会社

TEL.0120-804-280 〒201-0012 東京都狛江市中和泉 5-33-37

ホームページ <http://www.delonghi.co.jp>

※この取扱説明書に記載されている連絡先の名称、電話番号、所在地、営業時間に変更することがありますのでご了承ください。

